

2021年9月第2回 定例会一般質問

まつ おか

松岡ようじ



動物愛護に関して負傷動物と保護動物について

【質問1】
負傷動物に応急処置をした負傷動物救急指定病院に支払われる1頭あたりの治療費の上限が、現状では少ないと思います。救える命を救うために増額すべきと私は考えますが、いかがでしょうか。増額してまで、動物の命を救う必要はないでしょうか？

【答弁-健康福祉局】
負傷動物の治療事業は、市民等により発見され、負傷動物救急指定病院に搬入された負傷動物に対して治療を行う事業です。治療内容は、動物愛護センターへの収容に向け、あくまでも応急処置に止まるものであり、完治を目的としたものではないため、費用の増額については考えておりません。

【質問2】
来年度から動物愛護センターの業務量が増えると思うのですが、保護動物を適正に管理するのに、現在の職員体制で対応出来ますでしょうか？西宮市では獣医師5名を含む常時8人体制だそうです。尼崎市も同じくらいの職員体制にするべきと私は考えますが、いかがでしょうか。

【答弁-健康福祉局】
動物愛護センターの猫の収容頭数は、施設改修後、現在の15匹から30匹に増加する予定であり、飼育員につきましては2名程度の増員が必要であると考えております。一方で今回の施設改修は、譲渡を推進し、殺処分分の減少に繋げていくことを目的の一つとしていることから、日々の健康管理や治療に携わる、獣医師の増員も視野に入れながら、施設改修後の人員体制を検討する必要があると考えております。



【松岡の考え】
動物の殺処分ゼロ。

小学校の通学路における子どもの見守り活動について

【質問1】
地域の見守り活動団体「子ども見守り隊」を尼崎市独自に制度化し、活動保険に加入するなど尼崎市がサポートする必要が私はあると思いますし、活動団体も期待していると思いますが、どの様にお考えでしょうか、お聞かせください。必要ないというのであれば、「活動団体」に対し「尼崎市としては関知いたしません」と明確に伝えるべきではないでしょうか？

【答弁-教育委員会】
活動保険に関しましては、地域の皆様のご厚意によるものであることから、独自の制度化や公費負担による加入はしておりません。しかしながら、子どもの登下校における安心安全に寄与していただいていること、子どもたちが地域で見守られていることを肌で感じることができ、安心感を与えてくださっているといた点で、教育委員会といたしましても、大いに感謝しているところでございます。今後とも、無理のない範囲で子どもたちのためにご協力いただければと考えております。



【松岡の考え】
安心安全のために公費による活動保険加入は絶対必要。

指定避難場所になる市内41カ所の小学校における物資・設備等について

【質問1】
市立小学校全校に備蓄品が配置されていませんが、配置されていない避難場所には避難場所開設時どのように配布しますか？今後全校に備蓄品を、配置するべきと思いますが、いかがでしょうか？

【答弁-危機管理安全局】
災害時の備蓄品の輸送は、健康福祉局、総合政策局等担当部署が、集積場所から各地区の避難場所へ輸送することとしております。小学校への配備につきましては、余裕教室平成10年度に6カ所で開始し、平成30年度に12カ所に拡大しました。今後も、災害時の備蓄品配布を効率的に行うことを目的とし、分散備蓄を進めていきます。

【質問2】
指定避難場所である小学校体育館に空調設備を早急に設置する必要があると私は考えますが、いかがでしょうか？



【答弁-危機管理安全局】
避難所開設の長期化等により、空調管理のための備品に不足が生じる場合には、冷凍空調設備事業者と締結した「災害時における空調設備の供給等の業務に関する協定」により、スポットクーラーや大型扇風機等を追加で供給し、対応することとしております。

【松岡の考え】
体育館には空調設備は絶対必要。

地域コミュニティの維持拡大と地域所有の福祉会館の維持管理について

【質問1】
福祉協会というのは全世代対象に活動していますので、全世代対象に活動する事が出来る、助成金の制度があれば、活動資金の問題解決の1つになると私は考えていますが、尼崎市としてその提案についてどのように思われますか？



【答弁-総合政策局】
市としましては、現在、福祉協会の活動を側面的に支援するため、全世代対象の活動に活用いただける補助金を交付しているところでもあり、自治のまちづくり推進に向け、地域発意の自主的な活動が広がっていくよう、今後も支援をしてまいります。

【質問2】
地域の福祉会館の維持管理費と老朽化によるメンテナンス費を尼崎市には是非助成して頂き、今後も地域活動の拠点として維持していくべきと私は考えていますが、尼崎市としてはどのようにお考えでしょうか？



【答弁-総合政策局】
地域コミュニティの活性化のためには、子どもから高齢者まで、多様な世代が集える身近な地域活動“交流の場”は必要であると考えております。維持管理経費や経年劣化による修繕費については、市所有の福祉会館や地域所有の会館ともに、地域の皆様方の自主的な運営のもとで、管理されているところでございます。市としては、現在の財政状況のもとで、個別の施設維持管理に対する助成は考えておりません。

【質問3】
尼崎市の未来を考えた時、今後の街づくりの展開として加入率の下がってきている「福祉協会」を、尼崎市として必要と考えているのでしょうか？



【答弁-総合政策局】
本市の社会福祉協議会は、歴史的な経緯もあり、地域福祉だけでなく地域自治との両面において中核的な役割を担い、市民生活やまちづくりの全般にわたって地域コミュニティを共に支える協働のパートナーであると認識しております。その構成組織である「福祉協会」につきましても、自治のまちづくりを進める上で、加入率が低下傾向にあるものの、地域を支える主要な組織であると認識しており、今後とも地域コミュニティの醸成を共に図っていくパートナーと考えております。

【松岡の考え】
地域活動費用面での更なる助成制度について、ご検討していただきたい。

地域所有の福祉会館の維持管理費の助成をして頂きたい。

尼崎市モーターボート競走場について

【質問1】
2021年開催のSGレースの売上は平均約150億円となっており、SGレース獲得は非常に重要です。2022年はオーシャンカップの開催が決定していますが、今後グレードレース獲得には市長によるトップセールスが必要と思いますが、いかがでしょうか？また、市長によるトップセールスのほかに何か戦略がありましたら、教えて頂けませんか？



【答弁-公営企業局】
SGレースはファン待望のレースであり、その開催は売上向上にも非常に重要であると認識しております。SGレース誘致のためには、業界中央団体との信頼関係構築が必要不可欠であり、そのためには議員ご指摘の市長のトップセールスはもちろんのこと、ボートレースパーク化のような業界全体の方向性に沿った取組の推進に加え、快適で魅力ある施設の整備やファンサービスの充実も大変重要であるとと考えております。

【質問2】
お客様に気持ちよく過ごしていただくのに、さらなる施設整備が必要ではないかと思いますがいかがでしょうか？

【答弁-公営企業局】
大規模施設改修事業の終了後におきましても、快適に過ごしていただける場内環境の整備を継続して実施していくとともに、ファミリー層や若者など新たな客層を取り込むための魅力的な施設整備にも取り組んでまいりたいと考えております。

【質問3】
年間約180日のレース非開催日の施設の有効利用について、スポーツやコンサート等のライブビューイングを私は考えていますが、今後非開催日の施設の有効利用について何か具体的なアイデアがあれば教えて頂けませんか？

【答弁-公営企業局】
ボートレース尼崎では、地域に親しまれるボートレース場を目指してボートレースパーク化の取組を進めております。令和4年4月に場内にオープン予定の子ども向け遊具施設は、レース開催日186日に、夏休み期間などの非開催日も加えて、年間250日程度の運営を予定しており、地域のランドマークとなるような施設を目指してまいります。また、ボートレースファン以外の方からも利用され、賑わうような施設となるよう、議員ご提案のスポーツ等のライブビューイング等も含め、幅広くソフト・ハード両面の充実に向け方策を検討してまいりたいと考えております。

【松岡の考え】
尼崎モーターボート競走場での利益は市の財源に貢献するため、市民サービスの維持向上のためには必要不可欠であると考えます。